

令和4年5月13日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいいたします。

◆市長

はい、分かりました。記者の皆さん、ゴールデンウィークは、少しはゆっくりできましたでしょうか。大型連休が終わって初めての記者会見です。どうぞよろしくお願いいいたします。

さて、お手元に今年もシズカンのタブロイド判の新聞ができましたので、ご覧をいただきたいと思います。ご存じの通り、まち全体が劇場のような活気ある都市を目指しているという静岡市では、四季折々のイベントや地域特有の伝統文化行事などをパッケージ化することによって、来たるべきアフターコロナの時代に向けて、国内外からの誘客を目指す基盤づくりを、目下目下、進めております。例えば、春フェスは4月1日の「静岡まつり」から始まりましたが、ゴールデンウィークも「ふじのくに せかい演劇祭」とか「ストレンジシード」「サンバカーニバル」等々、記者の皆さんには鋭意取材をさせていただいてありがたかったですけれども、さまざまなイベントが開かれ、多くの皆さんに楽しんでいただきました。そして、明日5月14日から29日までは、春のフェスティバルを締めくくる「シズオカ×カンヌウィーク」が開催されます。年度が替わって赴任されたばかりの記者の皆さんの中には、「静岡市がなぜカンヌなの？」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。私ども静岡市は、1991年だったかな、もう30年にわたって姉妹都市の提携をしております。そこで、これは、私が市長になってからなのですが、初当選のときの公約で挙げた、映画に関わるイベントを姉妹都市の連携の中で開催をしていこうということで、カンヌ国際映画祭が開催される、この5月の時期に合わせて、民間の皆さんと共に「シズオカ×カンヌウィーク」を静岡で開催するようになりまして、今年13回目となります。このごろはシズカンという愛称で市民の皆さんに親しまれるような、春の風物詩として成長しつつあります。今年のシズカンの見どころは、鷹匠で初めて行われることでもあります。3週間、3ウィークにわたってそれぞれの開催場所の特徴を活かした演出をしておりますが、そのまず第1週目、ページでいうと開いてもらって1ページ目かな、4ページ目ですね、オープニングアクトとして「アニューアーレ・タカジョー・アート」というタイトルの下、初めて葵区の近ごろおしゃれな店が増えている鷹匠エリアで、シズカンのイベントを開催いたします。進出すると言ってもいいでしょうか。ご存じの通り、アニューアーレというのはアニュアルのイタリア語ですね。年に1回とか1年ごとのという意味で、

年1回のアート、音楽、フードを楽しめるイベントとして鷹匠エリアを盛り上げたいと、これが主催者の実行委員会の皆さんの熱い想いであります。同時に私どもは、文化庁が進める若手映画作家の育成プロジェクトの一環として、今後の活躍が期待される10人の若手監督の作品のプロデュースをする、そして楽しんでいただくというような装いであります。私も行ってみたいと思っています。

そして2週目の21日、22日は、七間町を舞台にした、シズカンが始まった場所ですけれども、「街角のマルシェ・七間町シネマテーク」が開催されます。七間町の通りというのは石畳ですので、ヨーロッパの雰囲気ですごく醸し出されます。そこであの石畳の通りにフランス料理やワインやスイーツなど、さまざまなジャンルのお店が今年も60軒以上、軒を連ねます。また、オープニングアクトとしては恒例となっているフレンチカンカンも披露されて、大いにフランスの街角の雰囲気を感じていただけるものと期待をしております。

そして、3週目には、5月の28日、29日ですけれども、今度は清水のマリンパークを舞台に「海辺のマルシェ・シミズ野外上映」、これでフィナーレを迎えることとなります。ワインやチーズ、シズカンだけのオリジナルメニューを扱う飲食店も出店する海辺のマルシェを楽しんでいただきながら、夜の港で海風を感じながら大きなスクリーンでの映画を楽しめるシミズ野外上映で、ぜひ、おなかも心も満足していただけるのではないかと、いうふうに願っています。このほかにも、ページをめくっていただければ分かりますが、市立図書館でのカンヌ国際映画祭関連映画の上映などのイベントもあります。主催者は感染症対策を徹底して準備を進めておりますので、市民の皆さんも基本的な感染症対策を取ってくださった上で、この春フェスのフィナーレを飾る「シズオカ×カンヌウィーク」を、どうぞお楽しみいただきますようお願いいたします。

結びに、といたしますか、そもそも3次総の5大構想の一つに取り上げられている「まちは劇場の推進」というのは、第一義的に文化・芸術政策なのですが、セットで経済政策でもあります。そこで、今回公民連携して、このイベントをプロデュースして、人に集まっていただいて経済の活性化につなげるという取り組みの中で、イベントの主催者に対する奨励事業「まちは劇場 TRY'22」を呼びかけましたところ、既に80を超えるさまざまな団体から申請をいただいていることは大変心強く思っております。春フェスはシズカンで終わりますけれども、例えば「清水七夕まつり」など夏フェスが次に始まりますので、そちらのほうもぜひ楽しみにお待ちいただきたいと思います。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただ今の件につきまして皆さんからご質問があればお受けしたいと思っております。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、引き続き幹事社質問

に移りたいと思います。時事通信さん、よろしくお願いいたします。

◆時事通信社

幹事社の時事通信です。よろしくお願いいたします。質問2点ございます。

まず1点目です。新型コロナワクチンの4回目接種についてです。政府が接種対象者を60歳以上の方や18歳以上で基礎疾患を有する方、その他重症化リスクが高いと医師が認める方とする方針を示しましたが、静岡市の4回目の接種スケジュールを教えてください。また、これまで「待つよりも打つ」というメッセージを発信されてこられました。4回目についても同様の方向でメッセージを発信していくお考えでしょうか。お願いします。

◆市長

はい、分かりました。二つ質問を頂きました。まず、最初のやつですけれども、ご承知の通り国が今制度改正に向けて準備を進めております。それに市も対応していきたいと思っております。3回目の接種から5カ月を経過した市民の皆さんが速やかに接種できるように、目下目下、医師会など関係機関との協議を進めているところであります。今回接種対象になる方の3回目の接種開始が1月の末でありましたので、5カ月が経過するとなると、6月の末からの接種の開始を予定しております。接種券の発送の時期など詳細につきましては、決まり次第、順次お知らせをまいります。二つ目の質問ですね。この4回目の接種は、重症化の予防を目的としたものとされています。接種から抗体ができるまでには、一定の期間が必要です。加えて、接種事業の終わりは9月末までとされており、対象となる方には、これまでと同様に「待つよりも打つ」と、この機会を逃さず接種をお願いしたいと考えております。一方、現在、静岡市の全世代の3回目の接種率は54.09%と5割を超えてきました。しかし、20代から40代の若い市民の皆さんの接種率が37.34%と、他の世代に比べて低い状況にあります。今後4回目の接種が始まりますと、医療機関や集団接種会場での接種の予約枠は、4回目の接種率の割合が必然的に多くなっていくことが予想されますので、3回目の接種がまだお済みでない方は、ぜひ早めの接種を呼びかけたいと思います。以上です。

◆時事通信社

ありがとうございます。すいません、もう一点ございます。今月5日に、日本平動物園のアジアゾウのシャンティが死亡しました。この件につきまして、市長は昨年の定例記者会見で、日本平動物園へのアジアゾウの導入計画について難航しているとお話しされましたが、その後進展はありましたでしょうか。また、今後の計画を

どのように進めていく予定か教えてください。

◆市長

取材に訪れていただいたということで、ありがとうございました。私も献花のために動物園に伺いましたけれども、本当にたくさんの方々が、また、静岡市外からも多く献花に訪れていただいたというのは大変ありがたく思っております。改めてこの動物園を、長年にわたって賑わせてくれたシャンティが亡くなったこと、非常に残念に思っております。さて、ご質問のゾウの導入の進捗についてであります。これも現場でも私、少しコメントをしましたけれども、シャンティが来てくれた1970年、昭和45年の当時とは動物を巡る社会情勢が大きく異なっております。例えばワシントン条約が採択をされた、動物福祉の観点、動物愛護の観点などなど、絶滅危惧動物の導入が困難な時代になってきております。現在、加えてコロナ禍ということで、我々が現地に赴くこともままならないという状況です。現在は、アジア地域のゾウの原産国の情報収集に集中をしているところでありますけれども、今後、原産国の動物園の方々と、まずは信頼関係を築いていくと。そして、ゾウ導入に向けた連携協定の締結に向けて、鋭意努力をしてみたいと考えております。

◆時事通信社

ありがとうございます。

◆司会

それでは、ただ今の幹事社質問に関連するご質問をまずはお受けしたいと思えます。いかがでしょうか。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

SBSです。4月に静岡に来たばかりですが、ゴールデンウィークおかげさまで満喫することができました。今のゾウのシャンティについての質問です。日本平動物園で先週、ゾウのシャンティが天国に旅立ってしまった、現在いるダンボも非常に高齢という状態です。なかなか難しいという話もありましたが、あと1年任期という中で、どれほどの温度感でゾウのファミリーを招くということに向けて、市としては動いている状態でしょうか。

◆市長

最善を尽くしたいと思えます。ただし、難しいということは、ぜひ、ご承知おきください。やはりSDGsもそうですけれども、地球温暖化、生態系の維持等々の

中で、動物がその土地で、その生態系の中で過ごすべきだというような主張というものが支配的になっております。そういう中で国境を越えてゾウを移動することは非常に難しくなっているというのが、私これまでも交渉に当たってきた実感であります。エキスパートとしてコーディネーターの方がおりますので、鋭意議論を深めてまいりたいと思っています。

◆SBS

やはり生態系を守ること…

◆司会

すいません、マイクを使っていただいてよろしいですか。

◆SBS

これは聞こえています？ すいません、失礼しました。よろしく申し上げます。やはり生態系を守るということを大切にしながらの作業になってくるとは思うのですが、そうなってくるとやはりダンボも高齢で、という中で、日本平動物園からゾウがいなくなってしまう可能性というの、やむを得ないということなののでしょうか。

◆市長

最善を尽くしたいと思います。ただ、そもそもゾウという動物は群れをなして生活をするという生態系を持っている動物なのですね。ですので、1970年はインドとも友好親善ということで、単体でシャンティが来てくれました。別のところからダンボが来てくれました。そして、静岡で出会って、1頭仲間がいて、友人がいて本当に救われたと思います。ですから、そういう時代とは違うという状況の中で、私たちがどうこの問題を対処していくのかと。あと、ゾウは移動しますので、この前もアジアゾウがインドから国境を越えて中国のほうに何十頭も移動したという記事がありましたけれども、今のゾウ舎では動物愛護の観点から、動物福祉の観点から、いかがなものかという問題提起もされております。そんなこともトータルに考えていかなければいけないというのが、今、環境と経済を両立するという中で難しい課題を突きつけられているというふうに理解しております。

◆SBS

繰り返しのお話ですが、そうするとやはり…

◆司会

すいません、マイクのボタンを、すいません、押して…

◆SBS

これですね。そうするとやはり、すぐに誘致は難しいですし、何年後という具体的なスケジュールを示すことというのは、なかなか、やはり現時点では難しいということですね？

◆市長

ただ、子どもたちはね、ゾウさん見たいというような気持ち、強いと思いますし、それを私も感じておりますので、その気持ちは受け止めて、コーディネーターともども公民連携で全力を尽くしたいというふうに思っています。

◆SBS

分かりました。ありがとうございました。

◆司会

それでは幹事社関連のご質問、その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。よろしくお願いします。シャンティの関係で先ほど市長も、これからまたゾウを招くとなると、ゾウ舎の拡大なんかも必要だと話があったと思うのですが、それについては今後やっていくのか、あくまでゾウの導入の目途が立ってからになるのか、その方針をお聞かせください。

◆市長

相手国との交渉次第ですね。結局、これからどこの国のどんな方と交渉するにしても、先ほど申し上げました通り、人間関係を築いていって、「あ、あそこの動物園だったならば大丈夫だ」というふうな信頼を得なければなりません。それは飼育の仕方というソフトの面もあれば、ゾウ舎の状態というハードの面もあります。それは相手のあることです。交渉国の相手先が要望することに寄り添うような形でこのことも考えていかなければいけないということでもあります。

◆静岡新聞

そうすると、ある程度交渉が進むというか、どこと交渉するかも含めて、そこが決まってからの話になってくるかな、という感じ？

◆市長

おっしゃる通りです。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社関連以外のご質問を、その他のご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。夏の参院選について、ちょっと早いですが、お伺いしたいのですが、昨年はたしか若林候補を応援されたと思うのですが、今年も昨年同様、若林さんの応援に立たれるのか、それか、例えば、静岡市へ遊説に来られた段階でタイミングを合わせてみたい形になるのでしょうか。

◆市長

今日は市長としての会見なのでね、選挙についてはちょっと言いづらいなというふうに思いますけれども、若林さんは去年落選されました。大変なご苦勞をされていると思いますのでね、ぜひ頑張ってもらいたいという気持ちがあります。

◆司会

その他いかがでしょうか。では、読売新聞さん。

◆読売新聞

すいません、ないので引き続き。例のスタバの問題で、一応住民のあれによって退去をされるということを本社が発表したのですが、一方、反対と同時にやっぱり来てほしいという市民の声もあるように聞いていますけれど、今後この問題については市長としてはどういうふうな形で調整を進めていくおつもりでしょうか。

◆市長

大前提としてはね、先日出店辞退のプレスリリースをされましたので、それを尊重し、重く受け止めたいというふうに思っています。もともと本事業の立て付けにありますけれども、ご存じの通り、静岡市は事業者を募集する。そして、提案を審査して、結果、選ばれた事業者グループが「つなぐ公園プロジェクト」のタイトルの

グループであったわけですね。その方々が事業計画を立案して、そのテナントであるカフェ事業者がそこであった、という立て付けであります。ですので、私たち静岡市は、そのテナントの一つとしてその会社がありますから、直接交渉するということには、なかなか相いれないということがありました。選ばれた事業者のリーダー社が交渉したというような立て付けになっております。それを踏まえながら、しかしながら、記者ご指摘の通り、市民の期待の大きさ、スタバが来てくれたらいいのにな、というような声も、たくさん私は受けておりますので、「ぜひ来ていただきたい」ということは、言い続けていきたいなというふうに思っています。しかし、なかなか厳しい状況であることは現実であります。

◆司会

その他いかがでしょうか。中日新聞さん、では先にお願いたします。

◆中日新聞

スターバックスの関連なのですけれど、市長としてはスターバックスさんのほうは、なぜ出店を辞退されたというふうに考えていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

やっぱり市民有志の皆様が、さまざまな多様な意見を言って、スタバの皆さんは、それにずいぶん寄り添っていただいた。地域の一員として、スタバが受け入れられるような状況を作りたいという気持ちを強く持っていました。その過程の中で、ドライブスルーをそこではやめるといふ、大変重い判断もしていただいて、私はありがたいなというふうに思っていました。そこで交渉がまとまるかのように見えたのですが、市民グループというのもきちっと組織化されたグループではありませんのでね、その中で、「いや、なおこうしてほしい」「ああしてほしい」というような要求というものが本社とか社長のところに直接届くようになったと。その先には住民監査請求も出てきたという流れの中で、今回のプレスリリースになったのだろうなというふうに思っています。

◆中日新聞

ありがとうございます。スターバックスのほうに住民のほうから直接何らかの要望を挙げるようになったというのは、例えば、どんな要望があったとかは把握していらっしゃいますか。

◆市長

何回も手紙が届いたそうです。

◆中日新聞

どういった内容の手紙ですか。

◆市長

それはここで、個人の親展の手紙だというふうに受け取っておりますので、私の存じ上げるところではありません。

◆中日新聞

それは個人から届いた手紙ということなのですか。

◆市長

そのようですね。

◆中日新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

朝日新聞です。よろしくお願ひします。桜ヶ丘病院について2点ほどお尋ねします。先月の25日、国会の参議院の予算委員会でこの問題の質疑応答がありました。議員側からこういう質問が出ました。「なぜ清水駅東口公園を選んだのか」と。これに対して、JCHOの山本修一理事長が以下のような答えをされています。「静岡市から、市役所清水庁舎建設予定地である清水駅東口公園を優先候補地として検討してほしい旨の意見があった」と、こういうふうなご発言がありました。これまでの市側の説明を私も記憶しているのですが、今回の選定にあたっては、4つの候補地を市側が示したのに対して病院側が選んだというふうに記憶しておりますけれども、まず、こうした山本修一理事長の、優先候補地として検討してほしい旨の意見があったという事実があったかどうか。

◆市長

はい。優先候補地という言葉に私はとっても違和感を感じています。私どもは記者おっしゃっている通り、JCHOの4つの条件、要望に沿っていくつかの複数の候補地をお示して、その中で選んだというふうに承知しています。

◆朝日新聞

そうすると、山本理事長の回答は間違っているというふう、ご認識でいらっしゃいますか。

◆市長

私は尾身会長とその交渉をしてきました。山本理事長とまだお会いできていないのです。ですので、やはり、ぜひその辺りのところ、理事長とちゃんとお会いをするということが大事なのではないかなというふうに思います。

◆朝日新聞

そうすると、尾身理事長と山本修一理事長の間に意見の齟齬と申しますか、見解の相違があったというふうな？

◆市長

いやいや、そうではなくて、おそらく引き継ぎの流れの中で山本理事長がそういうふうにお感じになってそういう表現を使ったのではないかな、というふうに思います。ここでね、せっかくJCHOさんがこの病院を素晴らしいものにしようと、4月に院長も代わって前向きに整備を進めてくれていますので、私たち静岡市はそれをきちっと下支えしていきたいというふうに思います。

◆朝日新聞

分かりました。あともう一点です。これは後藤厚生労働大臣の答弁なのですけれども、今回の移転に関してなんですが、「地域住民に対して合意が得られるよう、丁寧に状況を説明した上で地域としての合意が必要になると思う」と、こういうふうなご発言をされていらっしゃいます。このご発言を踏まえた上でですね、市長自らが出席した説明会の開催、これ、頑なに現在までしていらっしゃいませんけれども、この大臣の発言も重いと思うのですが、これをどういうふうに見止めていらっしゃいますか。

◆市長

大臣がどれだけ現場のことをご存じか、私は分かりませんが、やはり説明の仕方というのはいろんな手法があるというのはこれまでも話をしたところです。タウンミーティングでは私、先頭に立ってJCHOの代弁をするべく説明をいたしました。その後も、さまざまな度重なる質問状に対して誠意を持って、文書で回答

をしてきたつもりであります。

◆朝日新聞

説明はし尽くしたというご認識でいらっしゃるということでしょうか。

◆市長

丁寧にしてきたつもりはあります。それは静岡市として、市長の役割、市の職員の役割、オール静岡市で丁寧に説明をしてきたというふうに思っていますので、ぜひご理解をいただきたいと存じます。

◆朝日新聞

ありがとうございました。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。はい、お願いいたします。

◆読売新聞

今の関連で、ここのところ入札不調が相次いで、桜ヶ丘病院についても、この前入札が成立しなかったということがありますけれど、これは3月末着工というのを合意していて、やっていたという、とりあえずの目標が果たせなかったということになるのではないのでしょうか。

◆市長

おっしゃる通りですね。これは外的な要因があろうかと思えます。やっぱりコロナ禍あるいはウクライナ・ロシア戦争、さまざまな外的な影響の中で、原材料費が高騰しているとかさまざまな要因があろうかと思えます。しかしながら、とにかく供用、オープンの時期は変えずに頑張りたいということでもありますのでね、今後の推移を見守っていきたいと思っています。

◆読売新聞

そうすると、23年度中の開院をまだ引き続き期待しているということですか？

◆市長

そう伺っています。

◆読売新聞

分かりました。ついでに聞きますけれど、これに限らず市役所の関連も入札不調等、相次いでいますけれど、市長として今後どういうふうに対応されていくといたしますか、大浜公園でありますとか、海洋施設とかの問題についてどういうふうに対応されていくおつもりでしょうか。

◆市長

総合計画に登載された事業についてはね、そういう外的な経済的な環境とか、さまざまなマイナス原因はありますけれども、なんとか当初の予定に沿うような形でこれからも最善を尽くしてまいりたいと思います。

◆読売新聞

分かりました。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、以上で本日の会見を終了させていただきます。次回は5月27日、金曜日、11 時からの予定となっております。本日はありがとうございました。